城北まちづくり通信

2022 /12 / 9
４３号
城北まちづくり協議会
事務局：城北地区公民館

「狐川水質浄化対策検討会」からのお知らせ（報告）

（きつねがわ すいしつ じょうか たいさく けんとうかい）

先日（11月30日）、「狐川水質浄化対策検討会」が、流域内の地元住民、関係行政機関（国･県･市）、学識経験者等が出席して開催されました。

趣旨説明の後、各関係機関の取り組み状況と、狐川の通年増水 0.2m^3/sに向けた、詳細な水路の改修工事（R4,12月~3月）の説明がありましたことを報告します。

【決定事項】

◎令和５年度より、狐川の通年増水 0.2m^3/sの運用を開始しますが、引き続き通水量の維持や浸水被害防止のための巡回監視を実施します。。

◎今後は「狐川水質浄化対策検討会」を、「袋川・狐川水質浄化対策検討会」と改正します。

〈改正理由〉：浄化対策は、狐川と袋川を一体としてとらえることが合理的である。

【狐川水質浄化対策：これまでの経緯】

狐川は、もともとは農業用排水路でしたが、昭和30年代に入り水害が発生するようになりました。原因は、田園地帯の都市化が進行し、雨水の行く場を失ったことでした。その後、昭和44年（1969年）から改修が進められ、平成元年（1989年）3月に現在の狐川の姿に生まれ変わり、水害からの危険を回避することが出来るようになりました。

国・県・市は、その後も水害の軽減に取り組み、「狐川排水機場」と「浜坂遊水池」を一体利用することで、５０年に一度の大雨でも、住宅の床上浸水を防ぐことができるようになりました。

ところが、勾配（勾配=1/1500~1/1000）が緩いことに起因して流れが悪く、袋川からの逆流や、生活排水の流入などによって、悪臭等の原因となるヘドロが溜まり、水質の改善を求める声が住民から挙がるようになりました。

【年度による主な経緯】

◎平成11年度：山白川の流水の一部（0.05㎥/s）を狐川へ分流して流量を増やす。

◎平成12～13年度：ヘドロを取り除く浚渫事業を実施。

・浚渫区間　袋川合流点付近～上流約1,500m（感潮区間）、厚さ20～70cm

◎平成27年度：狐川の水質改善対策を検討するため、水質調査・解析業務に着手。

◎平成28年度：「狐川水質浄化対策検討会」を設置。　※地元住民の同意が必要

◎平成29年度：実証試験を実施。増水が有効という結果が得られた。

◎平成30年度：増水試験や水質シュミレーションを実施。通年流量“ 0.2m^3/s ”に絞り込む。

◎令和元年度：市と県で「狐川の通年増水」の実現に向けた課題を抽出。

・都市下水路部の流下能力不足区間（隘路部）の解消が必要（市）　・山白川・狐川合流部の分水施設の新設が必要（県）

◎令和2~3年度：市（水路隘路部）と、県（分水施設）において施設設計を実施。

◎令和４年度：水路の改修工事（R4,12月~3月）を実施

イベント中止のお知らせ

１２月４日【日】：世代間交流と、地球に優しい「循環させる資源」SDGs普及啓発を目的に、『ケヤキ通りの落ち葉集め』を計画していましたが、雨天のため中止しました。　来年の参加をお待ちしています。